HOKUGA 北海学園学術情報リポジトリ
学校法人北海学園
北海学園大学
北海商科大学

タイトル	Fluency獲得を目指した教室外ライティング活動におけるブログの利用
著者	浦野，研；URANO，Ken
引用	北海学園大学学園論集(145)：15-30
発行日	2010-09-25

Hokkai-Gakuen Organization of Knowledge Ubiquitous through Gaining Archives.

Fluency 獲得を目指した
教室外ライティング活動におけるブログの利用[1]

浦　野　研

Using blogs outside the classroom for building fluency in writing

Ken Urano

Japanese learners of English generally lack experience in expressing their ideas in writing. In order to build writing fluency, they should be encouraged to constantly engage in writing activities. However, limited lesson hours do not usually allow them to spend enough time to practice writing. It is therefore necessary to explore the possibility of conducting writing exercises outside the classroom. This paper reports on one such attempt. Non-English majors taking a second-year writing course at a private university take part in a weekly writing exercise using a WordPress blog. In this activity, the instructor presents a topic once a week and the students write 300 or more words about it within a week. Each student composition is then read and commented on by a few classmates in the following week, while at the same time the students are expected to work on the next writing topic. Although this activity is done completely outside the classroom, the students are required to work hard because their participation is evaluated as part of the course grade. Effectiveness of this blog-based writing activity was discussed using the six criteria for CALL task appropriateness proposed by Chapelle (2001), and suggestions were made to improve it.

1．はじめに

外国語を習得するにはインプットとともにアウトプットの機会を持つことが重要であり，英語教育においても，たくさん聞いて読むだけでなく，話したり書いたりする活動を十分に取り入れ

る必要がある（e.g., Ortega, 1997)。ところが，日本人英語学習者の多くは読む・聞くといった経験と比べ書く・話す経験が少なく，ライティングについても，高校卒業まで和文英訳や 1 文レベルの英作文以外の経験をあまり持たない学習者が多い。したがって，大学入学後の学習者の中には，自分の考えを英語で書いて表現することが得意でない者が多く，そのような学生は，まずたくさん書く活動を通して英語で表現することに慣れる必要があると考えらえる。

その一方で，中学や高校までと比べ，英語系の学部・学科以外に所属する学生にとって大学での英語の授業時間数は決して多くはなく，それぞれの科目が通常週 1 回，90 分間という開講形態であるため，少ない授業時間内にできることは限られている。また，collaborative writing のような活動を除き，ライティングというのは通常個人的な活動であり，教員と学生が同じ場所に集まる貴重な授業時間の多くを，他者との直接的な関わりの少ない活動に充ててしまうのは望ましいことではない。

そこで考えられるのが，英語を書く機会を授業時間外に確保するという案である。英語教育では，多読（extensive reading）や多聴といった活動が広く知られており，関連する多くの研究や実践例が報告されているが，筆者が考えている書く活動とは，いわば extensive writing といったものであり，継続的に書くことを通してライティングの fluency 向上を目指すものである。ライティングの授業では，宿題として英語を書く課題を出すことがよくあるが，本研究ではその中でもインターネット上のブログを活用した教室外ライティング活動の実践例を報告する。

2．英語教育におけるブログの利用

ブログとは，ウェブを利用した個人によるニュースサイトの総称で，個人のウェブ日記などにも広く利用されている。従来のウェブサイト作成のように，HTML の知識や専用のオーサリング・ツール（ホームページ作成ソフト），FTP ソフトといったものを使用する必要がなく，ページのデザインや新規文書の作成をウェブブラウザ上で気軽に行うことができる。そのため，ウェブページ作成に関する特別な知識を持たなくとも，ブラウザが操作できれば誰でも簡単に個人のサイトを構築でき，また作成された文書（投稿）を時系列または指定したカテゴリーごとに自動的に分類することが可能であり，情報を整理した形で保存する目的にも適している。ブログという仕組みについての知名度はここ数年で急速に高まり，最近では「ブログとは…」といった説明はもう不要になった感がある。

一般社会にこれだけ普及したブログを英語教育に活用した実践例は多いと思われるが，論文等の形で報告されているものは筆者の知る限りそれほど多くはない。日本の英語教育の文脈でブログの活用について早い段階で紹介した尾関（2003）は，英語授業サイトにおけるブログ利用の目的として，授業の記録，授業資料の蓄積，そして学習成果の発表の 3 点を挙げている。まず，毎回の授業内容を投稿することで，新しい情報を投稿した時点で随時にそれまでの授業記録が整理・保存される。また，授業内容の記録にリンクする形で配布資料などをアップロードすること

で，授業で使った資料をすべてネット上で保存・管理することが可能になる。さらに，学習者も投稿可能なブログを用意することで，個人またはグループで作成した作文等をネット上で簡単に発表することができ，従来型のウェブページによる情報発信と比べ，技術的な負担が少ないためより多くの時間を英語学習そのものに割くことができる。

英語の授業におけるブログの利用方法については，Campbell（2003）による tutor blog，class blog，learner blog という 3 分類が参考になる。Tutor blog とは，教員（のみ）が投稿し，シラバスや配布資料，補足情報の提示等にブログを利用する方法であり，尾関（2003）の挙げる授業の記録や授業資料の蓄積といった目的を持っていると言える。一方，class blog と learner blog では，学習者にも投稿権限を与えることで，学習成果の発表を可能にするとともに，ブログのコメント機能を利用することで，教員と学習者，また学習者同士のコミュニケーションを行うことも可能にしている。Class blog は，教員と学習者全員が 1 つのブログを共有し，情報・意見交換をするのに対し，learner blog では学習者一人一人が自分のブログを持って各自の意見や情報を投稿し，教員やクラスメイトが個々のブログを訪問し，コメントを残すことでコミュニケーションをはかる。表 1 は Campbell の 3 分類の特徴をまとめたものである。

表 1．Campbell（2003）によるブログの利用方法

	The Tutor Blog	**The Class Blog**	**The Learner Blog**
投稿者	教員	教員・学習者	学習者
形　態	授業に 1 つのブログ	授業に 1 つのブログ	学習者ごとのブログ
主な目的	授業の記録 資料の蓄積	学習成果の発表 コミュニケーション	学習成果の発表 コミュニケーション

次に，Campbell（2003）による 3 種類のブログの利用方法について，英語教育における実際の利用方法を報告した研究を紹介する。浦野(2004)は，大学 1 年生を対象にした英語の授業で tutor blog を採用し，毎回の授業記録や配布資料の提示や宿題の指示，授業の内容に関連したサイトの紹介といった形で利用する他，ウェブメール，サーチエンジン，オンライン辞書等へのリンクをブログのトップページに配することで，ブログをポータル的に活用した実践例を報告している。このような形でブログを運用するメリットとして，浦野は (a) 新規投稿および投稿内容変更が簡便である，(b)授業内容や宿題を掲示することによる授業を欠席した学生への対応が簡単になる，(c) 配布資料をアップロードすることでハードコピーの残部を保存する必要がなくなる，(d) 授業の補足情報を掲載することで授業時間外にも学生とのコミュニケーションが取れる，の 4 点を挙げている。

Class blog の利用報告としては Fellner & Apple（2006）が挙げられる。英語力が低く，英語学習に対する動機づけも低い大学 4 年生を対象とした 7 日間の集中講義の中で，Fellner & Apple は授業用のブログを 1 つ用意し，学習者は用意されたテーマについて授業時間内に作文を投稿し，

その後クラスメイトの投稿を読んでコメントを付けた。7 日間という短い期間であるものの，初日から 7 日目までの作文を比較すると，平均語数は大幅に増加し，使用された語彙の種類も増えた。このことから，Fellner & Apple はブログによるライティング活動が fluency を高めるのに役立ったと結論づけている。

英語教育におけるブログの利用では，おそらく learner blog の実践報告がおそらく一番多いが，その効果については意見が分かれる。Pinkman（2005）は，大学 2 ～ 4 年生を対象にした英語の授業の一環として，学習者一人ずつにブログを作成させ，毎週 1 回 150 語以上の自由英作文（テーマは自由）を投稿させた。学習者は自分の投稿の他，クラスメイトのブログを訪問して投稿にコメントを付ける課題も与えられた。ブログへの投稿は基本的に授業外の課題として行われ，授業と同様一学期間続けられた。学期終了後，学習者にインタビューとアンケート調査を行う形でブログ利用の効果を評価した Pinkman は，learner blog を利用したライティング活動は，学習者の動機づけを高める効果があったとしている。また，同じく大学生を対象に一学期間にわたってブログによるライティング活動を行った Otsuka (2008) は，ブログに投稿された作文の語彙的特徴を分析している。投稿された作文の語数の比較では明確な継時的変化は見られなかったものの，時間を経るごとに低頻度語彙の使用が増加したと報告している。Otsuka は，使用語彙の豊かさはライティング fluency の指標のひとつであると指摘し，ブログを用いたライティング活動は fluency 向上に役立ったと主張している。

その一方で，高等専門学校生を対象に夏休み中に各自作成したブログに英語の日記をつける宿題を課した大湊・茅野（2006）は，夏休み終了後のアンケート調査から，課題をやり遂げた達成感や自分の投稿に対してコメントをもらった嬉しさなどは認められたものの，クラスメイトのブログを閲覧することはあまりなく，夏休み終了後もブログを継続しようという意欲のある学習者がほとんどいなかったことを報告している。さらに，日本と台湾の大学生を対象にブログとメールを用いて交流を行った Lauer & Chiao（2007）は，台湾の大学生と比べて日本の大学生はブログに投稿やコメントをする回数が少なかったことを報告している。

ライティング能力向上のためのブログ利用という点に焦点を絞ってこれまでの研究をまとめると，class blog や learner blog を利用して行うライティング活動は，学習者の fluency や動機づけを高める可能性があるものの，動機づけへの効果については議論が分かれており，ブログの運用方法や形態が学習者の動機づけにどのような影響を与えるのかについて，ブログの利用方法をさらに詳しく分析する必要があると言える。

3．ブログの効果的な利用方法

英語教育の実践にブログも含めてインターネットや PC を取り入れる場合に，その動機が「インターネットが利用できるから」や「ブログを使いたいから」といった素朴なものである場合が少なくない。このこと自体が必ずしも悪いとは限らないものの，やはり教育上の効果について考慮

した上での実践が望ましい。それでは，ブログを効果的に英語教育実践に組み込むためには何に注意する必要があるのだろうか。本研究では，コンピュータ利用語学教育（CALL）における一つの指標として用いられる criteria for CALL task appropriateness（Chapelle, 2001）を紹介し，筆者によるブログを利用したライティング活動の評価基準とする。

Chapelle（2001）は CALL のあり方を第二言語習得（SLA）等の関連研究分野の成果に基づいて考察し，CALL 活動の評価基準として（a）language learning potential，（b）learner fit，（c）meaning focus，（d）authenticity，（e）positive impact，（f）practicality の 6 項目を提案している。Language learning potential とは，CALL 活動が単に外国語の使用場面を提供するだけでなく，学習者が新しい知識を習得する環境が整えられている必要性を指す。具体的には，活動の中に focus on form（e.g., Doughty & Williams, 1998）やインタラクション修正等，SLA 研究で効果があるとされる要素が含まれていることが重要であるとしている（SLA 研究に基づく効果的な指導方法については，Long, 2009 を参照）。Learner fit とは，CALL 活動の内容が，学習者の興味関心や言語レベルに合っていることを指し，例えば活動が簡単すぎれば学習者は何も学ぶことがなく，逆に難しすぎてもよくないとしている。Meaning focus とはそのことばが示すとおりであり，外国語習得は学習者の意識が主に意味に向いているときに促進されるとする SLA の研究結果に基づいている。Authenticity とは，CALL 活動の内容が，学習者が将来経験するであろう言語使用場面と類似していることを指し，より現実的な活動に取り組むことで学習者は積極的に活動に参加する可能性が指摘されている。Positive impact とは，CALL 活動が外国語学習だけでなく，ストラテジーの様に将来学習者が自律して外国語学習を継続するために必要なスキルや意欲を身につける機会を提供することである。Practicality については，CALL 活動の実施が教員にとっても学習者にとっても無理のないものであることが望ましいとしている。

4．本研究の目的

本研究の目的は，まず筆者が行っているブログを用いたライティング活動を詳しく記述することである。すでに紹介したものも含め，ブログ利用を扱った先行研究の多くは，ブログの使い方そのものよりもブログ利用がもたらす教育効果の測定に焦点を当てているため，実際の利用方法について詳しく説明したものはほとんどない。そのため，ブログをどのように使うことでより効果的な英語教育が可能になるのかという視点からの議論はこれまであまり行われてきていない。本研究では，ブログの利用方法を記述し，それぞれの構成要素について Chapelle（2001）の評価基準を用いて考察を加えることで，今後のブログ利用の方法論について何らかの示唆を与えることを目指す。

5．ブログを利用したライティング活動の実践例

筆者は，担当する大学 2 年生向けの英語ライティング授業において，fluency の獲得を主目的と

したブログによるライティング活動を 2004 年度より実践している。利用するソフトや運用形態等は年々変化しているが，本研究では主に 2008 年度の実践を中心に，必要に応じて他の年度の実践内容についても触れていく。

5.1　授業の概要

本研究で紹介するライティング授業は，日本の私立大学の非英語系学部に設置された 2 年生向けの科目である。 1 年次に必修の英語を履修した学生が， 2 年次以降も英語学習の継続を希望した場合に履修することを想定しており，例年定員以上の履修希望者がいるために， 1 年次科目の成績を基に履修許可者の選抜を行っている。1 クラスあたりの履修定員は約 15 名であり，週 1 回 90 分間の授業が行われる。前期・後期に各 2 単位が与えられる半期科目であるものの，履修者は原則として両方をセットで受講することが求められているため，実質的には通年科目として扱われている。

教室で行われる通常の授業では，主に教科書を用いてパラグラフやエッセイ・ライティングについて，担当教員の講義や教科書の課題の演習が行われ，さらに宿題として，プロセス・ライティングの手法を用いて実際にパラグラフやエッセイを書く課題が与えられる。

5.2　ブログを利用したライティング活動

ブログを利用したライティング活動は上で紹介したライティング授業の一環として実施されているが，教室内で行われる活動とは独立した形で進んでいる。このライティング活動のために筆者が専用のブログを設置し，教員と履修者全員が 1 つのブログを共有する class blog の形態を取っている。

この活動のためのブログは，筆者が契約しているホスティング (レンタル) ・サーバーにオープンソースのブログ構築ソフトである WordPress（http://ja.wordpress.org/；本稿執筆時の最新版はバージョン 3.0.1）をインストールする形で設置している。ブログの開設には，Blogger (http://www.blogger.com/) やライブドア・ブログ（http://blog.livedoor.com/）といったブログサービスを利用することも可能であり，その場合にはユーザー登録さえすればすぐに無料で使い始められるというメリットもある。しかしながら，ブログサービスで作成したブログの場合にはカスタマイズに制限があり，筆者が希望する全ての条件を満たしたサービスが見つからなかったこともあって，ブログ構築ソフトを利用している。

ブログ構築ソフトを利用するメリットとしては，まず自由度の高さが挙げられる。WordPress はオープンソースの形で提供されており，バージョンアップやプラグインの開発も活発に行われている。また，本体のバージョンアップやプラグインのインストールおよびバージョンアップがブラウザ上で簡単に行えることも大きな利点として挙げておきたい。WordPress に限らずコンピュータを利用したプログラムの大半は常にセキュリティ上のリスクにさらされており，脆弱性

①１人分の１回の投稿

②カテゴリー一覧

③最近の投稿 10 件

④最近のコメント 10 件

⑤週別アーカイブ

⑥投稿ページ入口

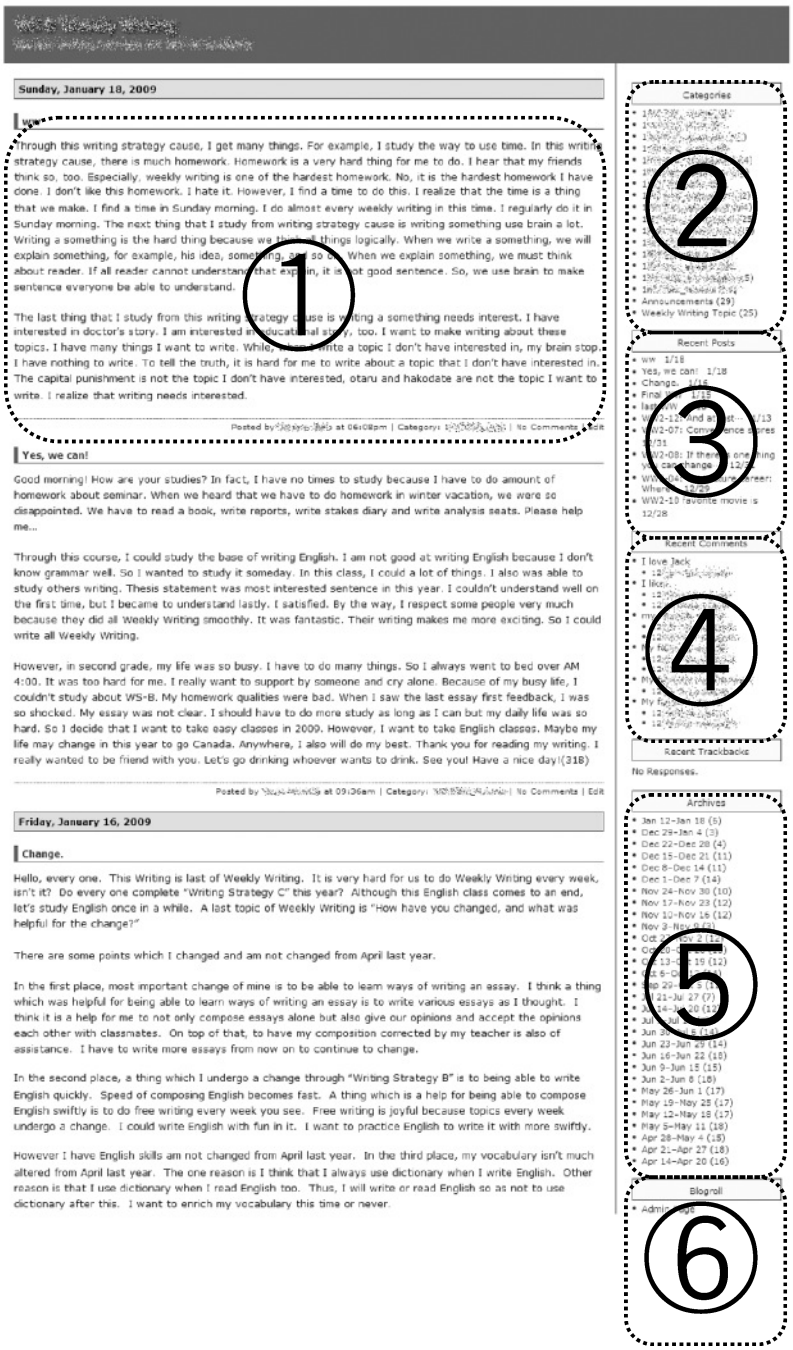

図１．ブログのトップページのレイアウト

が見つかった場合などは迅速に対応することが重要である。WordPress の場合には，新しいバージョンが利用可能になれば，ブラウザ上の管理者画面にその旨が通知され，基本的にはボタンを２，３回クリックするだけでバージョンアップが完了する。

ライティング活動のために設置したブログに対し，４月の段階で全履修者にアカウントを発行している[2]。学習者用のアカウントには WordPress でいう Author 権限[3] を与え，投稿およびコメントは自由にできるものの，その他のブログ管理に関わる操作はできないようにしている。また，ブログ全体をパスワードで保護し[4]，投稿やコメントはもちろん，閲覧についてもアカウントを持った人（教員と履修者）に限定している。これは，このライティング活動の出発点が教室内活動の延長という発想であり，普段クラスメイトと話すような気軽さで，本名を用いてある程度プライベートな内容についても気兼ねなく書くことができるようにと配慮しているためである。

5.3　基本的な流れ

本研究で紹介するライティング活動は，基本的に月曜に始まり日曜に終わる１週間単位のサイクルで行っている。まず，毎週月曜日に担当教員（筆者）がブログ上にトピックを投稿する。履修者はトピックを確認し，各自の考えをまとめ，日曜日までに 300 語以上の作文を投稿する（図２を参照)。

翌週には，月曜日に投稿される次のトピックについて作文する他に，前週の投稿のうちランダムに指定された複数の投稿を読んで，英語でコメントをつける。これまでに実際に使用したトピックの一部を以下に示す（実際に表示されたトピックのスクリーンショットは図３を参照)。

- Would you like studying alone or with a group of people?
- Would you like to be an employer or an employee?
- If you learn another language, what will it be?
- Where would you like to work in the future?
- Should convenience stores be open 24 hours a day?

トピックは，授業の内容に関連したものや，その時々の話題を中心に筆者が選定している。学生に自主的にトピックを決定させるというやり方も可能であるが，300 語程度書くには内容的に十分な深みがないトピックや，一部の学生のみが興味を持つものの他の学生には関心がないトピックなどが出る可能性があるため，筆者はこの方法は採用していない。ただし，学生がライティング活動に慣れてきた段階で，どのようなトピックがよいと思うか提案させ，その中から筆者が「使える」と思ったものを採用する形で，学生の興味・関心に近いトピックを織り交ぜるよう心がけている。

ブログに投稿された学生の作文は，新しいものが一番上に表示される形で自動的に整理される

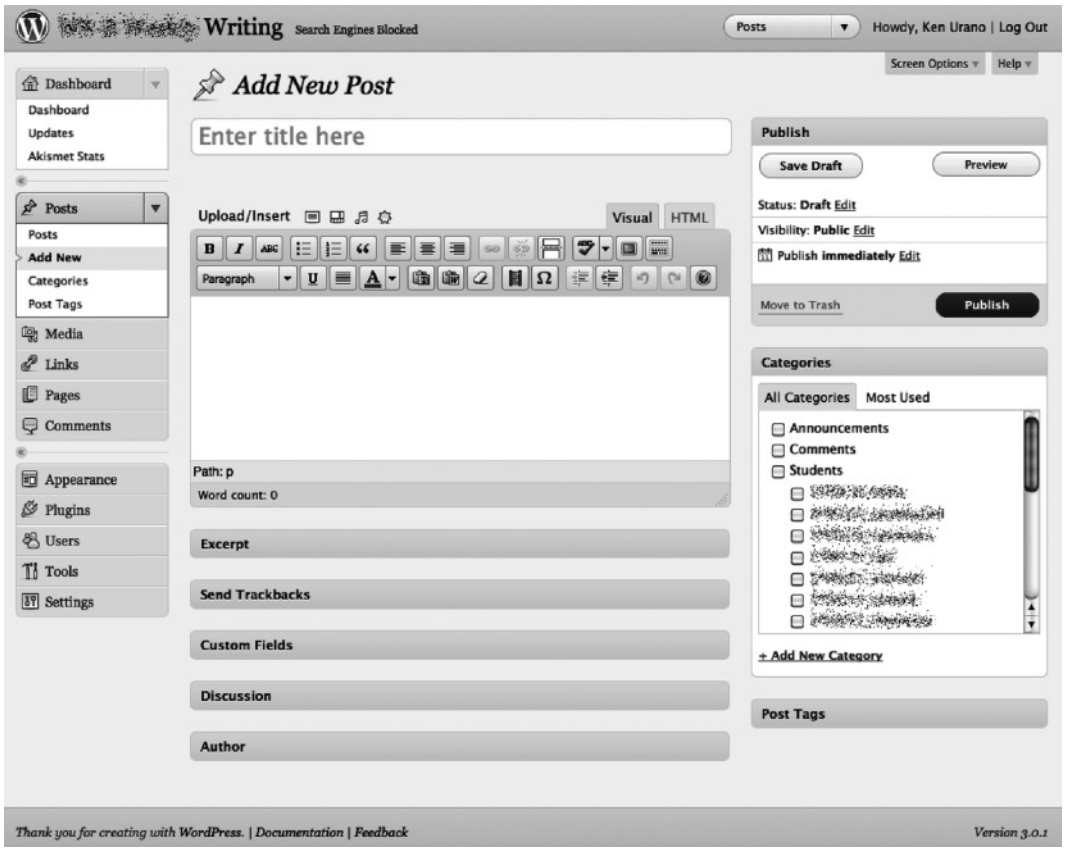

図２．WordPress の新規投稿画面

（図１の①）。また，履修者ひとりひとりに個別のカテゴリー（「学生番号_苗字」という形式）を割り振ってあるため，ブログのカテゴリー（図１の②および図４）から特定の履修者のものをクリックすることで，その学生の投稿を時系列順に一覧することができる。こうすることで，全履修者が１つのブログを class　blog として共有しているにも関わらず，カテゴリーを使って learner blog の様に扱うことが可能になる。また，学生ごとの投稿一覧を表示することで，ブログをポートフォリオ的に利用することができ，たとえば４月の新学期開始から１月の後期終了までの作文の変遷を簡単にたどることができる。さらに，カテゴリーごとに含まれる投稿数をカテゴリー欄に表示することで（図４），コンスタントに投稿している学生とそうでない学生が一覧できるため，学生同士の競争にもなり，教員の立場からもこのライティング課題への取り組み具合が簡単に把握できる。さらに，週別アーカイブ（図１の⑤および図５）を設置することで，週ごとの投稿を一覧する形で簡単に成績評価が行える。

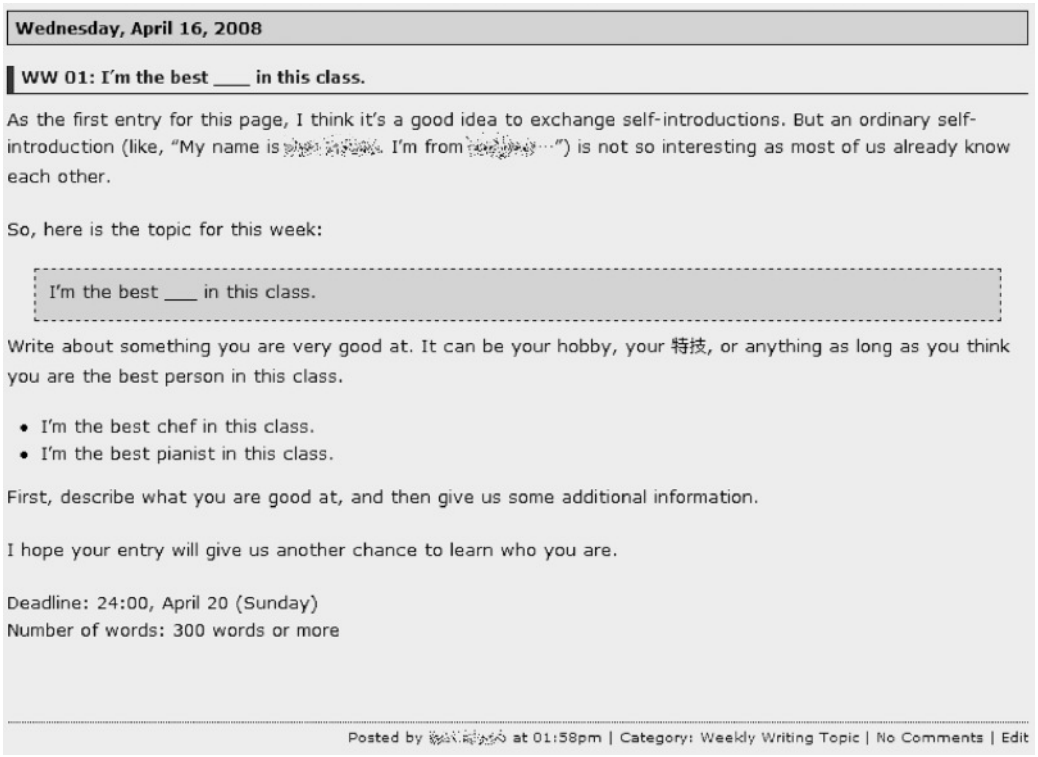

図 3．提示されたトピックの表示例

5.4　成績評価

通常の授業からは独立しているものの，このライティング活動は授業の一部として成績評価の対象になっている。配点は，学生が実際に費やす学習時間を反映させるため，前期・後期とも成績全体の 30%をこのライティング課題の得点としている。また，英語の表現や正確さなどはあえて評価せず，毎週コンスタントに課題をこなすこと自体を評価している。これは，このライティング活動の一番の目的が自分の思っていることを英語で表現する fluency を養成することであるからであり，表現や正確さ，それに文章構成能力等は，通常授業の中で課しているパラグラフやエッセイ・ライティング，教科書の課題，それに期末試験等の形で評価している。

6．考　　察

ここでは，前節で説明したブログによるライティング活動について，第 3 節で紹介した Chapelle（2001）の criteria for CALL task appropriateness に基づいて考察する。

6.1　Language learning potential

ブログも含め CALL 活動では，単に外国語の使用場面を提供するだけでなく，何らかの言語知

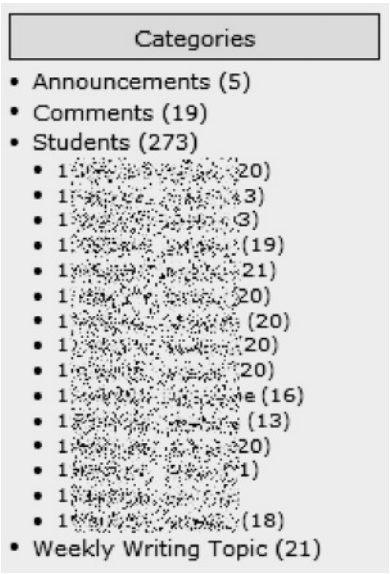

図4．カテゴリー一覧（拡大）

図5．週別アーカイブ（拡大）

識を習得する機会を提供することが望ましい。しかしながら，本研究で紹介したライティング活動では，たとえば文法や語彙に特に注意を払うような働きかけをしておらず，そういう意味で language learning potential に欠けていると言えるかもしれない。現在のやり方に focus on form のような考えを組み込むとしたら，たとえば学生が実際に誤りを犯した文法規則に関して何らかのフィードバックを与えることや，特定の文法規則を使う必要があるようなトピックを与えるといったことが考えられるが，この活動の目的があくまで思っていることをことばに表す練習の機会を得ることであるとするならば，あえてこのような働きかけはせず，現在までの指導法を踏襲するという選択肢もあるかもしれない。その場合には，授業の他の活動等で language learning potential を十分提供するよう配慮する必要がある。

6.2　Learner fit

Chapelle（2001）は，効果的な CALL 活動を提供するには活動内容が学習者の興味関心や言語レベルに合っていることが重要だと述べている。本研究で紹介したブログ活動では，内容（トピック）については一部であるものの履修者の提案を採用しており，またトピックの中には，大学生の生活と関係の深いもの（e.g., 大学の講義の話や，将来的な就職に関するものなど）をできるだけ取り入れており，そういう意味では学習者の興味関心からそれほど離れていない言うことができるかもしれない。

言語レベルについては，現在のところ取り立てて調整を行ってはいない。しかし，毎週課している 300 語以上という指定については，難しすぎて不可能とまではいかないものの，少なくとも

4 月の段階で学生が一気に書くのは困難である分量という意味で設定している。語数についてはこれまでに履修者に何度か確認しているが，現在のところ 300 語という指定が learner fit の観点からも適切ではないかと考えている。

6.3　Meaning focus

本研究で紹介したブログ活動では，学習者の意識のほとんどは意味に向けられていると思われる。筆者が提示するトピックについて英語で読んで理解し(図 3 を参照)，自分の考えを英語でまとめて発表し，さらに他のクラスメイトが書いたものを読んでその内容にコメントをするという一連の流れを見ても，一定の意味交渉が行われていると考えられ，meaning focus という点では良い学習環境を提供できていると言えるだろう。

6.4　Authenticity

Class blog のような場所に作文を投稿するといった活動がどのぐらい authentic かと問われれば，授業外に読者がいないなど，現実性は必ずしも高くないかもしれない。しかしながら，最近ではブログや他の SNS 等を利用したネット上での書き込み自体は日常においても頻繁に行われており，学生が将来的に似たような活動を英語で行う場面を想像することにそれほど無理はない。また，ブログ上に投稿した作文を教員だけでなくクラスメイト数名が読み，コメントを書いてくれることを学生は知っており，山本（2004）によれば，このように authentic audience が想定できることは言語学習に有効である。

6.5　Positive impact

本研究で紹介したブログ活動が，自律した学習者を育てる役に立っているかについては，その効果は疑わしいと言わざるを得ない。ひとつには，このライティング課題は常に教員の指示に従って学生が作文を投稿するという流れをとっているため，学生が自主的に行動を起こすことを想定していない。また，大湊・茅野（2006）の研究のように，授業の一環として投稿を義務づけられている期間を終えると投稿を止めてしまうケースが多く，本実践の学生が授業終了後も自発的に英語の文章をどこかで発表し続けるとは考えにくい。

ブログを利用したライティング活動において学習者の自律を促す手立てにはどのようなものがあるだろうか。最初から学習者の自発性に任せてしまうと，Lauer & Chiao（2007）が指摘するように投稿に消極的な学習者が出てきてしまう恐れがある。活動の初期段階では教員によってある程度の統制を取り，徐々に学習者に自由度を与えていくといった方策について今後検討する必要があるだろう。

6.6 Practicality

教室外のライティング活動をブログ上で実施することは，実用性の観点から見ればとても効率がよいと言える。まず，設置するブログは１つで済み，学期または学年が終了するごとに投稿を削除すれば毎年同じブログを再利用できる。次に，前述のように成績評価に文法や表現といった詳細な基準を用いないことで，毎週の課題チェックの負担も多くない。学生の立場から考えても，大学や自宅等で PC とインターネットを使える環境が普及しており，週に１度オンライン上で作文を投稿することがそれほど負担になるとは考えられない。

7．ブログを利用したライティング活動の効果

最後に，本研究で紹介したライティング活動がライティング能力，特に fluency の向上にどのような影響をもたらしたかについて検討する。ただし，本研究は実践報告ということもあり，実際にライティング能力を測定する形での評価は行っていない。ブログの投稿については，過去の全てのデータを保存してあるため，Fellner & Apple（2006）や Otsuka（2008）のように使用語彙の質と量を分析することは可能であるが，たとえ何らかの向上が見られたとしても，それがブログを利用したライティング活動がもたらした効果なのか，それとも授業内で行った他の活動の効果なのかについて明確にすることができないため，分析は見送った。その代わりに，この活動を経験した学生たちがどのような感想を持っているかについて簡単に紹介する。

年度末に実施した授業評価アンケートでは，例年「一番大変だった活動」と「一番役に立った活動」の両方でブログを利用したライティング活動が一番多くの票を集めている。また，このライティング活動の最終回には毎年「１年間でライティング能力がどのように変化し，授業の何がその変化に影響をおよぼしたか」というトピックを用いているが，その中から代表的なものをいくつか以下に紹介する（誤りも含め，そのまま掲載する）。

- ... I really feel my writing speed is improved.　It took about 2 or 3 hours to write 300 words in English in May.　But now, I can finish weekly writing less than half of an hour....　Sometimes (almost always!?) I feel weekly writing is troublesome task, but I believed that it is really helpful to improve our writing skills.　It is very hard to write 300 words in English EVERYWEEK, but doing those EVERYWEEK makes my skills improved....（2008 年度履修者）

- Weekly writing is last time, so I'm very happy.　I wrote it every week for a year, but it was not easy for me to continue to do it.　It is because we have to write 300 more words every week.　I can write about 200 words smoothly, but it's hard to write other 100 more words.　Even now it's not easy to do it, but I believe that I can write what I want to

say....（2008 年度履修者）

- ... weekly writing is one of the hardest homework.　No, it is the hardest homework I have done.　I don't like this homework.　I hate it.　However, I find a time to do this.　I realize that the time is a thing that we make.　I find a time in Sunday morning.　I do almost every weekly writing in this time....（2008 年度履修者）

- ... I can write many long sentences, easily and quickly.　When this class starts in April, maybe I couldn't write many sentences like now.　Also, I can write English sentence as soon as thinking the sentence in Japanese.　I think this alteration thanks to weekly writing and essay.　I always complain about weekly writing.　I don't want to admit this writing's effect but I admit it.　My writing skill changed thanks to this....（2007 年度履修者）

- First of all, my speed of writing is improved.　When I was first grade of this university, and I do not take this class, it cost me a few hours to write the sentence about 300 words. Moreover, I felt negative image from writing English sentence.　But after I took this class, I feel positive image from writing English and it cost me forty or fifty minute to write English sentence about 300 words.　I like to write English now....（2006 年度履修者）

8．おわりに

本研究では，大学のライティング授業において英語をたくさん書く機会を提供する手段としてのブログを利用したライティング活動を紹介し，先行研究との比較をとおしてその特徴を分析した。さらに，Chapelle（2001）の提案する SLA 研究に基づいた CALL 活動の評価基準を用いた考察によって，英語学習に有効だと思われる点と改善すべき部分を指摘した。最後に，この活動にこれまで参加した学生の評価から，筆者が現在実施している形でのブログを利用したライティング活動は，負担に感じることはあるものの概ね好意的にとらえられていることを示唆した。

本研究は実践報告であり，学習者の英語力の測定を行っていないため，ライティング授業でブログを利用することの有効性について断定的な結論を述べることができない。しかしながら，Chapelle(2001)の評価基準や学生の感想などをとおして，改善の余地はあるものの，今後もこの実践を継続していく意味があることを示せたのではないかと考えている。そのためにも，学習者のライティング能力の測定も含めてさらに詳しい調査が必要になるだろう。

注

1．本研究は，2009 年 3 月 28 日に大学生協杉並会館で開催された第 81 回コンピュータ利用教育協議会（CIEC）研究会において筆者が発表した内容に加筆修正を加えたものである。

2．学生用アカウントの発行は，事前に履修者から集めた希望ユーザー名，ランダムに作成するパスワード，氏名，メールアドレス等の情報を CSV 形式のファイルで入力し，CW Batch Register プラグインを用いて一度に行っている。

3．WordPress におけるユーザー種別は次の通りである：

- Administrator：管理者。すべての権限を持つ（教員用アカウントはこのタイプ）。
- Editor：編集者。ページのデザインやプラグインの設定等以外の権限を持つ。
- Author：投稿者。記事の投稿および自分の書いた記事の編集ができる（学生用アカウントはこのタイプ）。
- Contributor：寄稿者。記事を書くことができるが，書いた記事を公開するには，その都度管理者または編集者の承認が必要になる。
- Subscriber：購読者。本研究で紹介したブログのようにパスワードで保護されたブログの閲覧や，登録者以外のコメントを受け付けない設定のブログへのコメントができる。

4．パスワードによるブログの保護には Members Only プラグインを利用している。

引 用 文 献

Campbell, A. P. (2003, February). Weblogs for use with ESL classes. *The Internet TESL Journal, 9*(2). Retrieved from http://iteslj.org/Techniques/Campbell-Weblogs.html

Chapelle, C. A. (2001). *Computer applications in second language acquisition: Foundations for teaching, testing, and research*. Cambridge: Cambridge University Press.

Doughty, C., & Williams, J. (eds.) (1998). *Focus on form in classroom second language acquisition*. Cambridge: Cambridge University Press.

Fellner, T., & Apple, M. (2006). Developing writing fluency and lexical complexity with blogs. *The JALT CALL Journal, 2*(1), 15–26. Retrieved from http://www.jaltcall.org/journal/articles /2_1_Fellner.pdf

Lauer, J., & Chiao, T-L. (2007). The effectiveness of blogs and e-mail exchanges: A project between Japan and Taiwan. 『広島外国語教育研究』10, 197–208. Retrieved from http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/metadb/up/kiyo/AA11424332/h-gaikokugokenkyu_10_197.pdf

Long, M. H. (2009). Methodological principles for language teaching. In M. H. Long & C. J. Doughty (Eds.), *The handbook of language teaching* (pp. 373–394). Oxford: Wiley-Blackwell.

大湊佳宏・茅野潤一郎. (2006). ブログを使用した英語ライティング活動：夏休み課題に関するアンケート調査.『長岡工業高等専門学校研究紀要』42, 1–9. Retrieved from http://ci.nii.ac.jp/lognavi?name＝nels&lang＝en&type＝pdf&id＝ART0007522728

Ortega, L. (1997). Processes and outcomes in networked classroom interaction: Defining the research agenda for L2 computer-assisted classroom discussion. *Language Learning & Technology, 1*, 82–93. Retrieved from http://llt.msu.edu/vol1num1/ortega/default.html

尾関修治. (2003, August). マルチメディア・ガイド［17］：Blog を授業に活用する.『英語教育』8 月号, p. 61. 東京：大修館.

Otsuka, T. (2008). Lexical quantity and quality: Does blogging contribute to writing fluency? *HELES Journal, 8*, 3–18.

Pinkman, K. (2005). Using blogs in the foreign language classroom: Encouraging learner independence. *The JALT CALL Journal, 1*(1), 12–24. Retrieved from http://www.jaltcall.org/journal/articles/1_1_Pinkman.pdf

浦野　研. (2004, June). MovableType を利用した授業支援ウェブシステムの構築と運用. 第 34 回中部地区英語教育学会富山大会発表（富山大学）.

山本涼一. (2004, July). 外国語学習における authenticity と CMC. 第 44 回外国語教育メディア学会全国研究大会発表（西南学院大学）.